

町会長連合会だより

平成23年2月15日

第5号

発行 佐野市町会長連合会
編集 会報編集委員会

唐沢山…藤原秀郷公の居城跡で、深い歴史を持つ山

岡部市長と佐野市への熱き想いを討論

町会長連合会主催「市長との懇談会」2回実施

地域の代表として

8月27日葛生あくとプラザ小ホールにおいて葛生地区の町会長19名、11月17日田沼庁舎大会議室において田沼地区の町会長30名が岡部市長との懇談会を行いました。両開催とも予定の時間を上回る白熱した議論となりました。

地域の代表として、市民生活における様々な問題や不安に感じていることに焦点をあて、市民の考えを市行政へ率直にぶつける形となり、両地区併せて20を超える議題が話し合われました。

その中でも現実的な課題として中山間地域で抱える問題（イノシシ等による被害や学校・保育園などの教育に関すること、災害に関すること）について多く議論されました。

イノシシの被害

イノシシの被害が拡大しているということに関する市の対策はという議題では、耕作放棄地の拡大や高齢化による担い手不足が被害を拡大し、地域を減退させていると主張しました。それに対し、県や農協と連携して対策を今後も行っていく。決定的な策がないため、現在の電気柵等の対策を行っていきながら、大学との研究チームをつくり調査結果を反映させるとのことでした。

子どもの教育について

少子化に伴う小中学校の再編について、地域による教育格差の早期改善を求めました。そのことについては、保護者や地域の方々と問題を共有することが大事と考えます。市教育委員会でも、地域の実情に合わせた学校教育のあり方について検討を重ねていますので、今後保護者や地域の皆様と話し合いを行っていくことでした。また保育園については、計画的に整備を進めているが統廃合を考えなければならないところもあるため、建設場所等について話し合いを行うとのことでした。

高齢化が抱える問題

高齢化が抱える問題として、介護保険施設の入所定員不足、独居老人や高齢夫婦世帯への声掛け、耕作放棄が顕著であると訴えました。

市は、市民との協働をまちづくりの基本としている。出来る限りのことは行っていくが、市民と手を取り合っていくことが大切との考えでありました。

平成23年度も懇談会を開催する予定です。私たちの声が行政にたどり着き、結果として行政サービスに結び付くまでこの事業を続けなくてはならないと考えています。



町会長は地域のために学んでいます！

～茂木町ゆずの里かおり村 いしかわとも のぶ 石河智舒会長に学ぶ～

減気を元気に

「減気を元気に変える」が石河会長さんのモットーだそうです。そのとおり、私たちが訪れていた約2時間半ずっと元気にしゃべり続けていました。石河会長さんが村の再生に動き出したのは昭和50年代。すでに過疎化が始まっていた村を「嫁の来る村にしたい」との思いから脱サラをし、ゆずによる村おこしを始めました。



何故ゆずなのか？と尋ねたところ、毎年たくさんの実をつける一本のゆずの古木を見て、閃いたそうです。そこからは後を振り向くこともなく、地域の人々を説得し「みんなで頑張っぺー」と、ゆずの木を植え続け生産組合の設立までこぎ着けたとのこと。

ゆずの木オーナー制度

平成になってからは、ゆずの木のオーナー制度を開始。東京のオーナーさん達の協力により山小屋の宿泊体験も実施しました。世にグリーンツーリズムという言葉が無かった頃の一步先駆けたイベントでした。「イベントは金を掛けずに知恵で勝負する」そうです。米が余ったら大食い大会を開催するらしい。

行政に頼らない

また、行政には頼らず全部自力で頑張っているそうです。人や街に元気があれば自然と人が集まると考え、金を掛けずあるものを生かすのがスタイルだとのこと。ゆずの里の成功により、茂木の町にはそば、梅、棚田等の16団体の地域づくりがその影響を受け進んでいます。

「長続きさせるには少しは商売っ気も出さなきゃだめだよ」と。

観光カリスマ

石河会長さんは栃木県唯一の国土交通省認定の観光カリスマです。その認定証をはじめ、数え切れないほどの感謝状が自宅兼かおり村役場に飾られています。



大黒ふ頭コンテナターミナル海上自衛隊厚木航空基地を視察！

猛暑の気配を感じ始めた7月12日、町会長97名は横浜市の大黒ふ頭コンテナターミナルと神奈川県綾瀬市と大和市にまたがる海上自衛隊厚木航空基地を視察しました。

佐野市の「内陸型コンテナターミナル構想」の基本となる物流の役割や効果、今後の方向性などを学び、町会長にとって最も気になる近隣環境への影響などについて視察しました。

埋立て港湾部のため、近隣に住宅がある様子はありませんでしたが、横浜港150年の歴史が物語るとおり、ごみの散乱などは皆無に等しく、行きかう大型トラック等も安全走行を心がけており、かえって静かな場所の印象さえ残りました。



続いて海上自衛隊厚木航空基地を視察しました。ここ

は米海軍が併設された施設でもあり、騒音をはじめ近隣住民との付き合い方などの考えを学びました。

空母が寄港していなかったため航空機の騒音を感じることは出来なかつたですが、基地に住民の方を招いたり、積極的に地域貢献をしている等細心の注意を図っていることは受けて取れました。

基地以外でも私たちの周辺には迷惑施設と呼ばれるものは存在します。その施設とどのように共存していくのかは、お互いの相手を思いやる気持ちをどのよう形にするのかに掛っているのかもしれない。



永年在職の町会長・町会役員の方々が
表彰を受けられました

1月12日佐野市町会長新春祝賀会（佐野市文化会館）、1月27日栃木県自治会連合会会長研修大会（益子町町民会館）において、長年にわたる町会活動や地域の社会福祉向上に寄与された方々が表彰を受けられました。（敬称略）

【佐野市町会長連合会永年在職町会役員表彰】

- 丸山博大 伊賀町
- 小野寺 清 若松町（城南）
- 青山高子 若松町（城南）
- 石井 展 若松町（城西）
- 黒田昭雄 若松町（城西）
- 藤浦柳起 関川町
- 青木 勇 葦川町
- 青柳 晟 富士町（上）
- 坂本十三吉 富岡町（東部）
- 綾部 豊 堀米町（七区）
- 池田 昇 堀米町（七区）
- 砂川 浩 新吉水町北

【栃木県自治会活動功労者知事表彰】

- 田中正美 若宮下町

【栃木県自治会連合会自治振興功労者表彰】

【佐野市町会長連合会永年在職町会長10年表彰】

- 勅使川原正 若松町（城西）
- 二木忠人 若宮上町

【佐野市町会長連合会永年在職町会長5年表彰】

- 田澤真人 大町
- 大川 勇 金井上町
- 松本 忠 金吹町
- 高久昭恵 七軒町
- 三井 健 植上町
- 島田一男 田島町
- 森 武英 犬伏下町
- 吉田邦男 町谷町
- 山根令恵二 並木町（田中）



篠崎連合会会長が
全国自治会連合会
特別功労感謝状受賞



全国自治会連合会25周年記念大会（10月7日大分市）において、佐野市町会長連合会及び栃木県自治会連合会役員を歴任し、地域活動の推進と住民自治発展に寄与したことが称えられました。

篠崎会長…本当に名譽なことと感謝いたします。今後も地域の発展に積極的にそして楽しんで臨んでいきたいと考えています。

田中連合会副会長が
栃木県自治会活動
功労者知事表彰受賞



栃木県自治会連合会会長研修大会において、20年にわたる町会の維持・発展活動への多大なる功績を称えられ、栃木県知事より表彰されました。

田中副会長…地元の方々に支えられてここまで町会長を全うすることができました。これからも地域のために努めてまいります。



平成22年度佐野市町会長連合会
事業経過と予定

- 5/13 第1回理事会
- 5/21 通常総会
- 5/30 全市一斉清掃
- 6/14 第2回理事会
- 6/25 栃木県自治会連合会総会
- 7/12 管外視察研修会
- 8/15 町会長連合会だより「からさわ」第4号発行
- 8/26 第1回市長との懇談会
- 10/5 第3回理事会
- 10/14 栃木県自治会連合会研修会
- 11/11 茂木町ゆずの里かおり村視察
- 11/17 第2回市長との懇談会
- 12/15 第4回理事会
- 1/12 新春祝賀会（永年町会長・町会役員表彰）
- 1/27 栃木県自治会連合会会長研修大会
- 2/15 町会長連合会だより「からさわ」第5号発行
- 2/16 栃木県自治会連合会県南ブロック会議
- 3月 第5回理事会

町会に加入しましょう！

町会は皆さんからの会費などを基にいろいろな活動を行っています。

- 1 自主防犯パトロールや自主防災活動
- 2 地域のお祭りでの人々の交流や子ども会、敬老会への協力
- 3 地域の文化の伝承
- 4 清掃活動をとおしての環境美化活動
- 5 地域の事業案内や市役所・学校・警察などからの情報の回覧

中山間集落と企業が手を取りあい

梅園町

活動のはじまり

梅園の人たちは、この景観を後世に受け継いでいきたいと日頃より考えていました。その反面、地域は高齢化が徐々に進み、耕作放棄地もちらほらと気になるような状況になってきていました。

そこに栃木県の「中山間集落と企業を結ぶ協働活動支援モデル事業」の話が持ち上がり、思い切って手を上げたことが切っ掛けとなりました。同じ頃「JAふれあい農業体験活動」にも参加することになり、いよいよ梅園が動き出しました。



企業との交流

平成22年より、足利に工場を置くバンドー化学㈱の方々と交流が始まりました。バンドー化学㈱は本社が神戸市にあるということもあり、県外の方も多く、地域に溶け込みたいとの思いも強かったとのこと。3月の梅まつりに始まり、6月に田植え・じゃがいも掘り、10月に稲刈り・さつまいも掘り、11月にはもち米の収穫に稲の脱穀などを行いました。多い時には100名程の人たちが集まり、子どもたちの交流も行われ活気と笑顔が溢れ溢れていました。



梅園の思い

最初に行ったことは、地域に残したいものを全員に出してもらったことでした。樹齢600年の榎やヤシオツツ、ザリガニやホタルに古民家までそれぞれの思いが一つの地図となり、景観散歩を楽しむ遊歩道の整備を手掛けました。それが平成20年9月のことです。

次に耕作放棄地に手を付けました。菜の花を咲かせ、菜種油を取ろうと計画しました。しかし菜種の収穫が思ったより少なく今後の課題となりました。



これから

岩崎町会長は「支援モデル事業は今年で終了してしまつが、ここからが始まりです」と話しています。長続きさせることが使命と、以前視察した茂木町のオーナー制度や福島県のおぶくま農業応援隊をヒントに、梅園らしく梅のオーナー制度をはじめ、しだれ桜や桃などの景観づくりも今後の展開として考えているようです。



※写真はバンドー化学㈱との交流の様子

編集後記

◆来る3月、北関東自動車道的全線開通が実現する。本市にある二つのインターから東西南北に伸びる高速道路網。佐野市を起点に「人と物の交流」が飛躍的に期待できよう。市にとって発展と改革の年であることを願う。◆市行政の末端組織を担う町会長が市長と懇談した。地域代表としての要望・願いでなく、地域が抱えている直近の課題解決や合併後、6年を経た新生佐野市が取り組むべき行政の在り方など、熱い討論が交わされた。市としては「懇談会」を実施したという実績、つくり終わることなく、速やかな行政サービスの実現につながることを切望する。◆市民との協働をまちづくりの基本とする市では、町会をはじめ地域社会の自主・自立が求められる。「ゆずの里」や梅園町の実践はその範として、多くの示唆を提供してくれた。市民各位の奮起を期待する。

発行者 佐野市町会長連合会

T327-85001

栃木県佐野市高砂町1番地

佐野市役所行政経営課内

〒328-0203

発行責任者 篠崎芳明

編集委員長 飯田明生

編集委員 石田清純 三井 健

上岡良雄 藤倉 準

川上恵一

佐野市町会長連合会は全域167町会で組織されています。